



地形・地質

広島平野は太田川の三角洲で、江戸時代から現代まで盛んに行われた干拓や埋立てによって形成された平野です。

広島市における地質学的区分および地盤地質区分と各層の構成物

地質学的区分				地盤地質区分		層	深さ・地表からのm	構成物
時代	名称	性質		最上部	最上部層	I	～～3	膨縮消長のはげしい粘土まじりのシルト層を主とし、部分的には砂礫を含む。場所によっては下定に近い砂礫の部分が直接地表下に来る。
第 四 世 紀 更 新 世	完 新 世	I 層	埋土	粘土層	U m			
			有機質シルト層	上部砂礫層US'	III	～10～～12 (北部) ～10～～33 (南部)	主として粘土まじりのシルト層よりなるが、砂層をはさむ部分を境として上・下2層に分けられる。本層には一般に木の葉のほか、上位層にシオフキ、カキ、ハマグリ、カガミガイ、下位層にケイ化した貝、シヤコの化石、イセシラガイ、ウラカガミ、イヨスダレ、シラトリガイ等を含むことが報告されている。構成成分や貝化石等からみて、上層はなぎさ線付近の浅海、下層は干潮線以深の内湾浅海沈積物と考えられる。	
	上部河成層・沿岸堆積層 (広島砂層)	下部粘土層UC	IV	～12～～16 (北部) ～33～～35 (南部)				粗砂層を主とするものであるが、小礫をまじえる部分もあり、一般に上流側では厚く下流側では薄くなっている。優勢な帯水層を形成する。これより上位の各層に比べて、かなり純成度の高い砂、粘土まじりの礫層で平地部では最も普遍的に存在するが、山脚では本層を欠く箇所があり、沖の海底では再び薄くなる。
	上部浅海堆積層 (広島粘土層)							
	IV層	上部粗砂層・流積マサ層	基盤層	V	～45～?	粗砂層を主とするものであるが、小礫をまじえる部分もあり、一般に上流側では厚く下流側では薄くなっている。優勢な帯水層を形成する。これより上位の各層に比べて、かなり純成度の高い砂、粘土まじりの礫層で平地部では最も普遍的に存在するが、山脚では本層を欠く箇所があり、沖の海底では再び薄くなる。		
下部礫層	下部砂層LS・LS'	V					～45～?	少量の礫をまじえた砂質層を主とするものが多く、上位に硬質粘土を挟む部分もある。下位については全般としては確認できない。
V層	上部粗砂層・流積マサ層		基盤層	V	～45～?	少量の礫をまじえた砂質層を主とするものが多く、上位に硬質粘土を挟む部分もある。下位については全般としては確認できない。		
下部礫層	下部砂層LS・LS'	基盤層					V	～45～?
白亜紀末	基盤		黒雲母花崗岩類	風化花崗岩WG	基盤層	黒雲母花崗岩		

地下水

広島平野では、沖積・洪積層の砂礫層にそれぞれ不圧地下水、被圧地下水が賦存し、工業用水・ビル用水として、地下水の採取が行われています。

出典 日本の地下水（農業用地下水研究グループ,1986）（一部加筆）

「日本の地下水」では全国の地下水盆の概要が紹介されています。各地下水盆の概要を紹介している頁と関連する論文等を、下記の Web ページで閲覧できます。

<http://www.jagh.jp/jp/g/activities/committee/research/gwdb.html>（日本地下水学会）